

倫理 研究課題 <青年期01>

教科書：p ～ 資料集：p ～ ノート：p ～

●人間とは何か

①「人間は理性的存在である」という考え方

- ・リンネ（生物学者）：ホモ・サピエンス（知性をもつ動物）
- ・ベルグソン（哲学者）：ホモ・ファーベル（工作人）
- ・カッシーラー（哲学者）：アニマル・シンボリックム（象徴＝抽象的概念を操る動物）
- ・ホイジンガ（歴史家）：ホモ・ルーデンス（遊戯人）＝遊びを楽しむことによって文化を形成し動物的本能から自由になった（遊びが理性や文化を発達させた）ということ。
例えば水島朝穂氏（早稲田大学教授）は、「大学は遊びに起源をもち、大学の研究は、自由な行動・非日常性・完結性から成る」と述べている（2010/9/27「直言」）。
- ・その他：教科書・資料集を参照

②「人間は多面的存在である」という考え方

※多面的＝人間は理性的な面だけでなく、理性とは反対の性質をもつ面（感情や欲望、弱さや悪性）さえもっている、という意味。

※人間の尊厳＝人間として尊重されるべきであるということ（＝単なる「物」ではなく「生命をもった存在」、品位ある「人間」として、扱われるべきであるということ）。

- ・ドストエフスキー（作家）の作品中の人物（例：『罪と罰』のラスコーリニコフ）
- ・パスカル（哲学者）：「人間は考える葦である」
- ・モリス（動物学者）：「体毛のない動物（裸のサル）」として人間を観察

★「理性」とは何だろう？

.....
.....

★「人間＝理性的存在」という考え方には、どういう意義と限界があるだろうか？

.....
.....

※このように、何事にも異なった複数の見方・考え方がある。「唯一正しい答え」があるわけではない。だから思想は面白い。「当たり前」にとらわれず自由に考えること＝哲学する（学問する）こと！